

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

1. 自立支援協議会や地域精神保健福祉連絡会等での活動により、各地域に存在する医療機関、障害福祉サービス事業所、相談支援機関及び行政との間で、顔が見える関係が構築されており、地域包括ケア体制について共有および検討がしやすい土壌がある。
2. ピアサポーターをはじめ、当事者とそれを支える地域活動支援センター等の積極的な活動が経年的に行われている。
3. 障害福祉サービスにおける地域移行支援事業以外に、市独自の事業としてこちらの健康センターが医療機関への訪問や研修会を経年的に実施している。市内の全精神科病院において、長期入院患者の実名入りの実態調査に協力を得られるなど、医療機関側の理解が促進されつつあり、退院支援の導入にも協力的である。
4. 健康ボランティアである愛育委員や民生委員等の活動が活発で、精神障害者を支える地域づくり活動の基盤がある。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
保健・医療・福祉関係者による「協議の場」について、地域包括ケアシステムの構築に向けた課題整理や政策提言を行う役割が体系的に整理ができていない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岡山市精神保健福祉審議会を「協議の場」として明確に位置付け、体系的な整理を行う。 2. 「協議の場」を定期的に開催し、ピアサポーターの養成・活用等、精神障害者の地域支援についての具体的な検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. R2年3月開催の岡山市精神保健福祉審議会において、R2年度から同審議会を「協議の場」として位置付けることについて承認を得る予定。 2. 上記審議会とは別の審議会において、長期入院患者の地域移行・地域定着支援等の取組状況を報告し、課題、方向性について審議。
障害福祉サービスにおける地域移行支援の活用が進んでいない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画相談支援事業所と定期的に協議(計画WG)を行い、研修会を実施し障害福祉サービスの活用や周知を図る。 2. 自立支援協議会地域部会(地域移行WG)において、地域移行支援の情報共有や事例検討等を行い理解を深める。 3. 長期入院患者調査の結果を踏まえ、医療機関や相談支援事業所等との情報交換会を実施するなどして両者をつなぎ連携を促進し、地域移行支援の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月1回実施。地域移行支援も含めた障害福祉サービスの運用状況について定期的な情報交換を行い、行政と相談支援事業所との顔が見える関係が継続できた。 2. 3地域中2地域の地域移行WGにおいて、地域移行支援について情報共有し、課題を共有している。 3. 毎年長期入院患者の実態調査を行い、医療機関や相談支援事業所へ実態を伝え、事例検討等を通し、医療機関と相談支援事業所とのマッチング等実施している。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①自立支援協議会精神保健福祉部会、岡山市精神障害者地域支援対策審議会の開催回数	部会: 9回 審議会: 1回	部会: 年6回 審議会: 年1回	部会: 地域課題について協議を行い、医療と福祉の連携について検討。 審議会: 地域移行・地域定着支援の課題、方向性等について審議。
②ピアサポーター養成者数・派遣依頼件数	養成者数: 9名 派遣依頼件数: 78件	養成者数: 10名 派遣依頼件数: 60件	養成者数は概ね目標を達成。派遣依頼件数は目標値を上回り、着実に件数が増加している。また、R1年度から、長期入院患者の退院促進に特化したピアサポーターを採用し、退院促進の取組を推進している。
③長期入院患者に関しこちらの健康センターが退院支援を行い、障害福祉サービスにおける地域移行支援利用に至った数	7件	6件	既に目標値を達成。また、現在、利用契約に向けて7件が調整中。